

資料3 アンケート調査の概要

(調査日)

11月16日に一斉発送し、12月20日締切り(調査時点は11月15日)

(対象)

- 1 府内の整形外科、リハビリテーション科、脳外科、脳神経外科、精神科、神経内科等の診療科をもつ病院797カ所。
- 2 府内の身障、知的、精神の小規模作業所、通所授産、地域生活支援センター、社会復帰施設等の794ヶ所。

(調査内容)

1 病院

- ① 基本情報について(病院名、院長名、連絡先、所在市町村名)
- ② 高次脳機能障害または、高次脳機能障害の疑いのある方が、通院または入院しているか。(診療科)
- ③ 高次脳機能障害の診断をしているか。(診療科)
- ④ 高次脳機能障害の行政的な診断基準に基づいて診断が可能か。(診療科)
- ⑤ 神経心理学的検査及び評価を実施する職員が配置されているか。(担当職種)
- ⑥ 主に使用している検査名(記憶障害、注意障害、遂行機能障害、コミュニケーション障害、病識欠落、社会的行動障害、その他)
- ⑦ 医学的リハビリプログラムとして、認知リハを実施しているか。(担当職種)
- ⑧ 府域の地域相談支援ネットワークへの参画意向について
- ⑨ 公表の可否について

2 作業所等

- ① 基本情報について(事業所名、代表者名、連絡先、所在市町村名、利用者定員、現員)
- ② 職員体制について(職種名、常勤・非常勤別)
- ③ 主な活動内容
- ④ 現在、高次脳機能障害者が利用されているか。(人数、頻度)
- ⑤ 今後、高次脳機能障害者の受入れの可能性について。
- ⑥ 府域の地域相談支援ネットワークへの参画意向について
- ⑦ 公表の可否について

(調査結果)

1 病院

- ・ 329病院から回答。(回答率 41.3%)
- ・ すでに診断している、診断が可能である病院は、167ヶ所。主な診療科としては、リハ科、神経内科、精神科、神経科、脳神経外科、内科。
- ・ 検査及び評価担当者がある病院は、107ヶ所。主な担当職種は、OT、ST、心理、精神科医師
- ・ 認知リハを実施している病院は、63ヶ所。主な担当職種は、OT、ST、心理、PT。
- ・ 参画意向のある病院は、59ヶ所。(前向きな参加意向は、30ヶ所)
- ・ 公表について、全公表可は244ヶ所、全公表不可は38ヶ所。

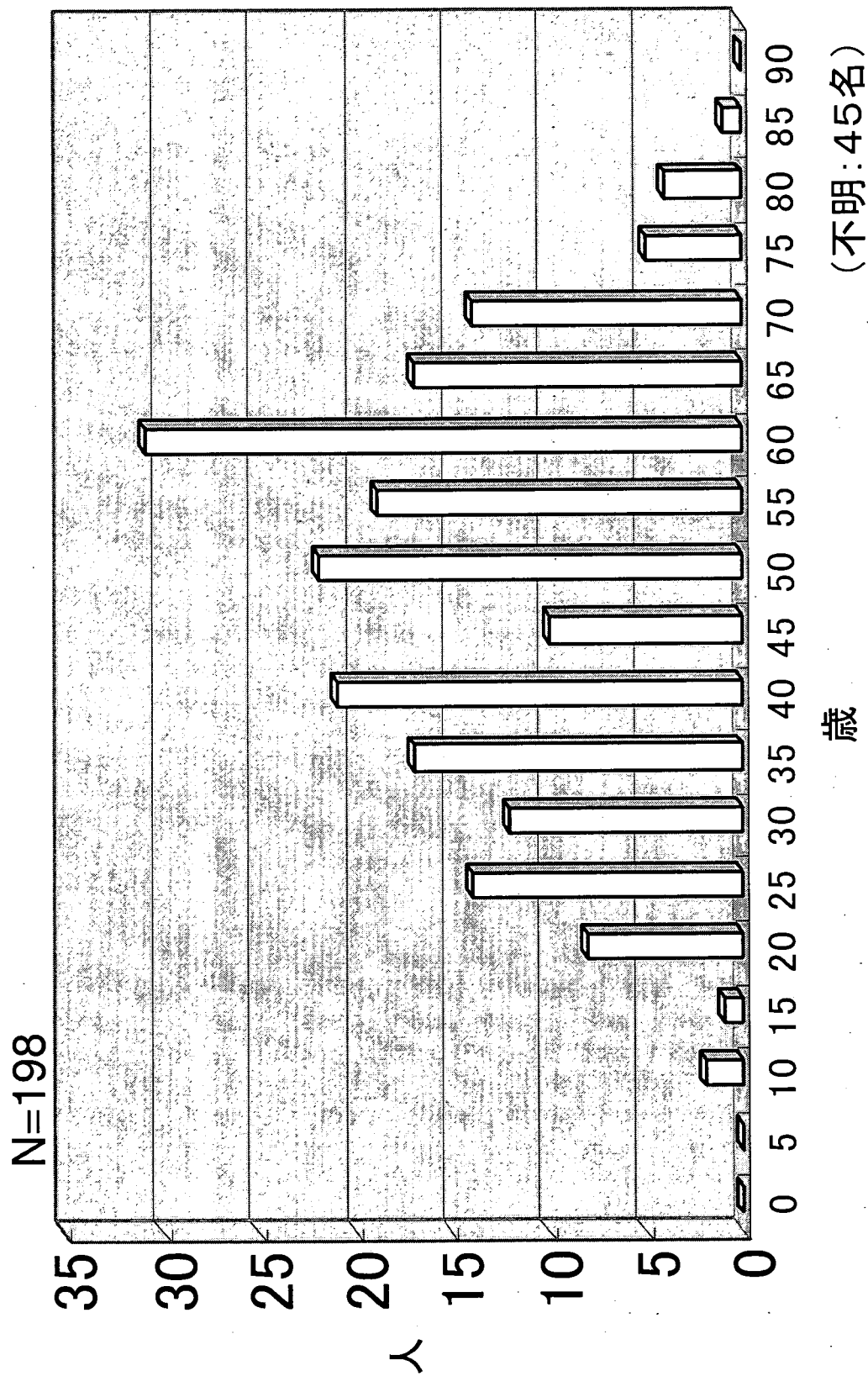
2 作業所等

- ・ 389事業所から回答。(回答率 49.0%)
- ・ 受入れ可能、受入を検討する事業は、266ヶ所。
- ・ 現在、高次脳機能障害者の利用がある事業所は、82ヶ所。
- ・ 参画意向のある作業所等は、92ヶ所。(前向きな参加意向は、36ヶ所)
- ・ 公表について、全公表可は330ヶ所、全公表不可は14ヶ所。

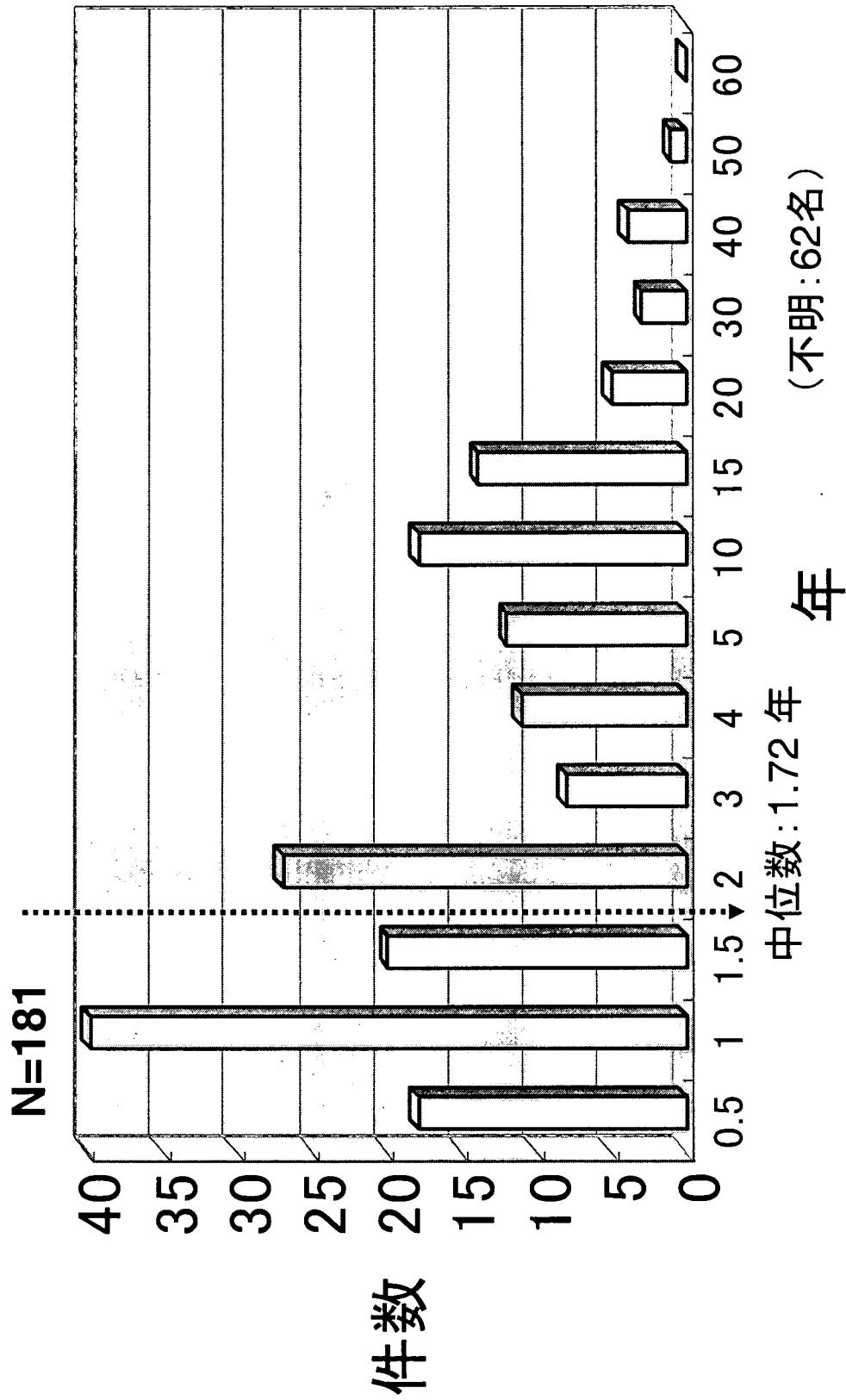
地域区分	市区町村名	病院					作業所等				
		診断	検査	リハ	参画希望	公表可	受入検討	高次脳利用者	参画希望	公表可	
豊能	吹田市	8	3	2	3	11	15	6	2	18	
	池田市	2	1	0	0	3	1	0	0	3	
	能勢町						3	1	3	5	
	豊中市	8	7	6	4	10	10	4	4	17	
	豊能町						1	0	0	2	
	箕面市	3	1	0	0	3	2	1	1	2	
	豊能計	21	12	8	7	27	32	12	10	47	
三島	茨木市	6	2	1	2	6	10	2	1	10	
	高槻市	2	2	2	1	1	9	0	3	14	
	摂津市	1	0	0	0	1	7	3	3	7	
	島本町	1	1	1	1	1					
三島計	10	5	4	4	9	26	5	7	31		
北河内	交野市	0	0	1	0	1	6	2	2	8	
	四條畷市						2	2	0	4	
	守口市	2	3	2	0	3	6	0	3	6	
	寝屋川市	4	2	1	0	5	8	3	3	6	
	大東市	0	0	0	0	0	4	2	2	8	
	枚方市	3	2	1	1	11	15	4	8	21	
	門真市	0	0	0	0	0	7	0	3	6	
北河内計	9	7	5	1	20	48	13	21	59		
中河内	東大阪市	5	5	2	3	6	15	4	7	16	
	柏原市	2	1	0	1	2	5	1	1	4	
	八尾市	8	4	2	3	11	10	0	1	11	
中河内計	15	10	4	7	19	30	5	9	31		
南河内	羽曳野市	3	2	1	0	5	3	3	2	7	
	河内長野市	2	1	0	2	2	2	1	0	3	
	河南町						0	0	0	0	
	松原市	4	2	1	2	4	4	0	1	5	
	千早赤阪村						0	0	0	1	
	太子町						1	0	0	1	
	大阪狭山市	1	1	1	2	3	2	0	0	2	
	藤井寺市	3	1	0	0	3	3	2	1	2	
	富田林市	3	2	2	2	2	5	3	3	8	
南河内計	16	9	5	8	19	20	9	7	29		
泉州	貝塚市	3	3	3	2	4	4	2	1	5	
	岸和田市	7	5	4	4	9	2	1	0	3	
	熊取町	2	1	1	1	2	4	0	1	3	
	高石市	1	2	1	0	3	4	1	3	6	
	阪南市	0	0	0	0	0	4	3	0	4	
	泉佐野市	4	2	1	1	4	5	1	1	5	
	泉大津市						2	0	1	3	
	泉南市	1	1	1	1	2	2	0	0	7	
	岬町						1	0	0	1	
	和泉市	0	1	1	0	3	6	1	3	7	
泉州計	18	15	12	9	27	34	9	10	44		

地域区分	市区町村名	病院					作業所等				
		診断	検査	リハ	参画希望	公表可	受入検討	高次脳利用者	参画希望	公表可	
堺市	堺区	5	3	1	1	10	4	2	1	3	
	西区	4	2	2	3	10	6	3	3	10	
	中区	3	1	0	2	2	3	1	0	5	
	東区	3	2	1	0	0	1	0	0	2	
	南区	1	0	0	0	2	7	4	4	6	
	美原区						1	0	1	1	
	北区	6	2	1	1	5	4	1	1	4	
	堺市計	22	10	5	7	29	26	11	10	31	
大阪市	阿倍野区	2	2	1	0	3	1	0	0	3	
	旭区	2	2	2	0	3	1	0	1	2	
	港区	2	0	0	0	2	2	0	0	2	
	此花区	1	1	0	0	2	0	0	0	0	
	住吉区	2	2	1	1	4	6	3	2	5	
	住之江区	1	1	1	1	1	0	0	0	3	
	城東区	3	3	2	3	3	1	1	1	1	
	生野区	2	1	1	1	3	3	1	0	2	
	西区	0	2	0	2	5	1	1	0	1	
	西成区	1	1	1	0	2	3	3	2	4	
	西淀川区	2	1	0	0	2					
	大正区						3	1	0	5	
	中央区	6	6	0	1	16	2	0	1	2	
	鶴見区	1	1	1	0	1	4	2	1	3	
	天王寺区	3	3	1	1	7	2	0	0	3	
都島区	2	1	0	0	6	3	1	2	3		
東住吉区	2	2	1	1	2	2	0	1	1		
東成区	3	2	1	1	4	4	1	1	5		
東淀川区	6	3	3	1	6	4	1	1	3		
福島区	2	1	0	0	0	1	0	1	3		
平野区	2	0	0	1	3	2	1	2	3		
北区	6	2	1	1	10	1	1	1	0		
淀川区	5	2	3	1	8	3	1	1	3		
浪速区	0	0	0	0	1	1	0	0	1		
大阪市計	56	39	20	16	94	50	18	18	58		
計	167	107	63	59	244	266	82	92	330		

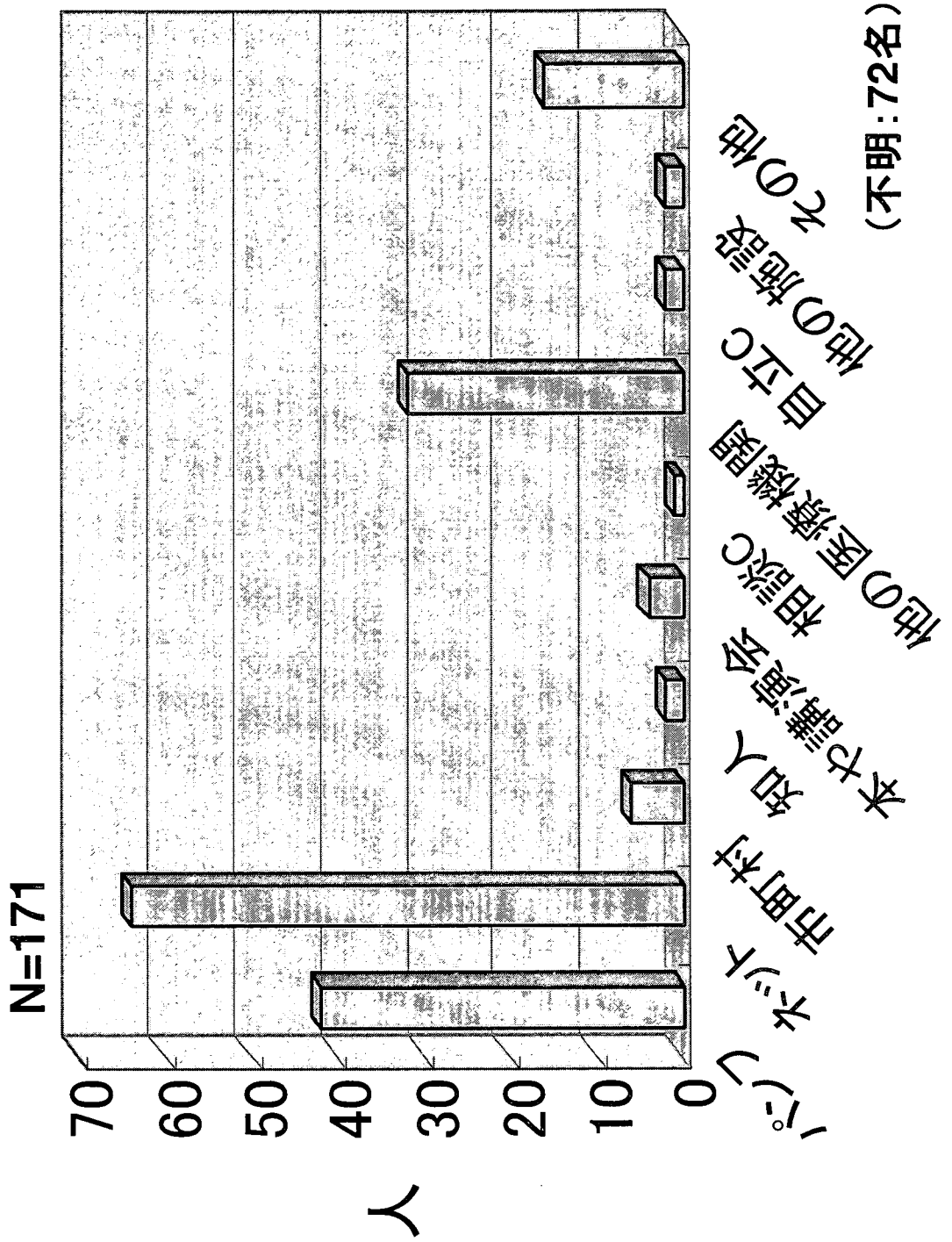
年齡分布



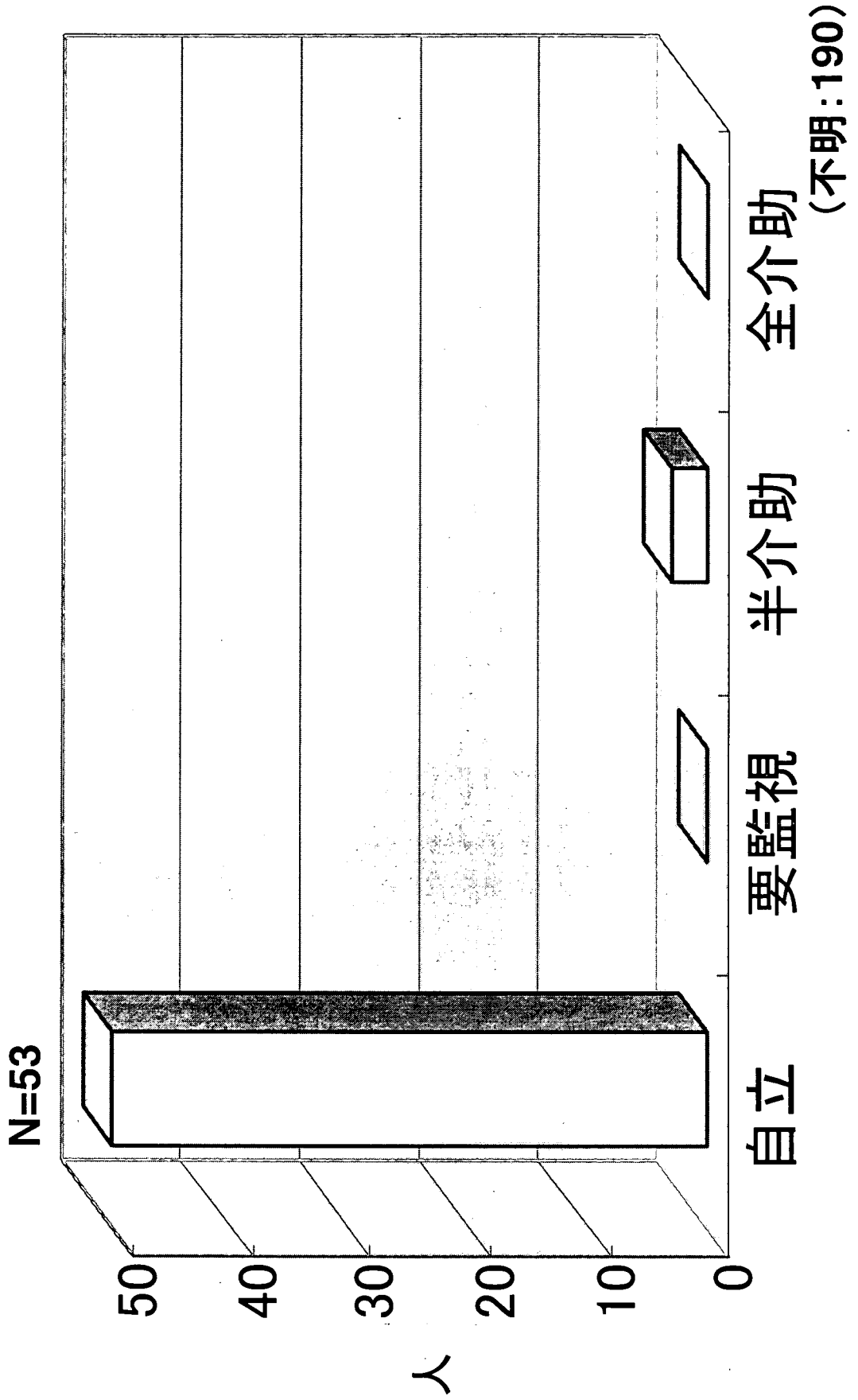
受傷からの年数



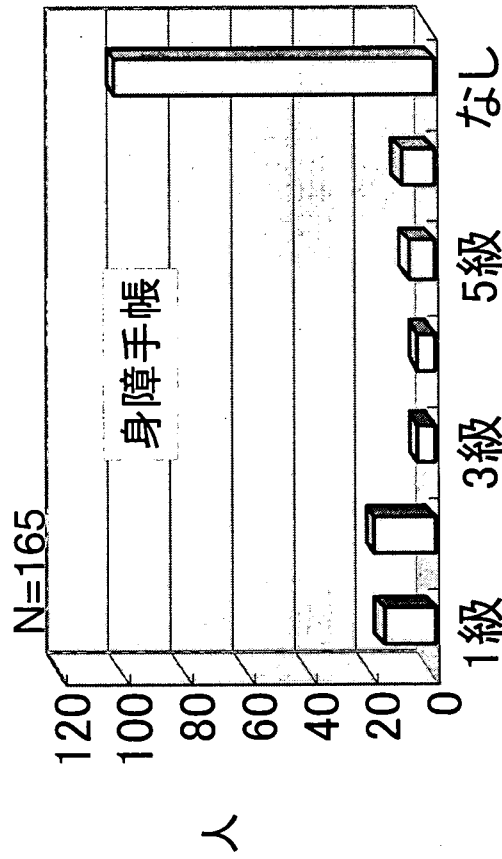
相談経路



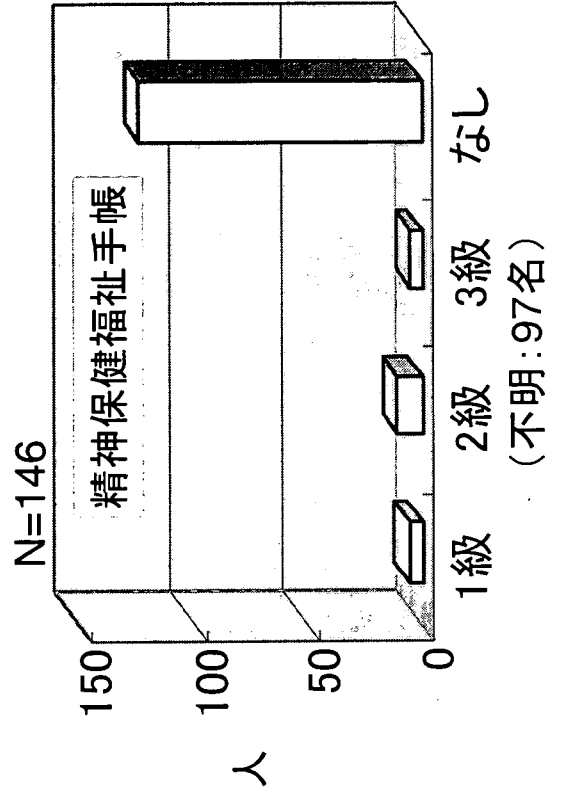
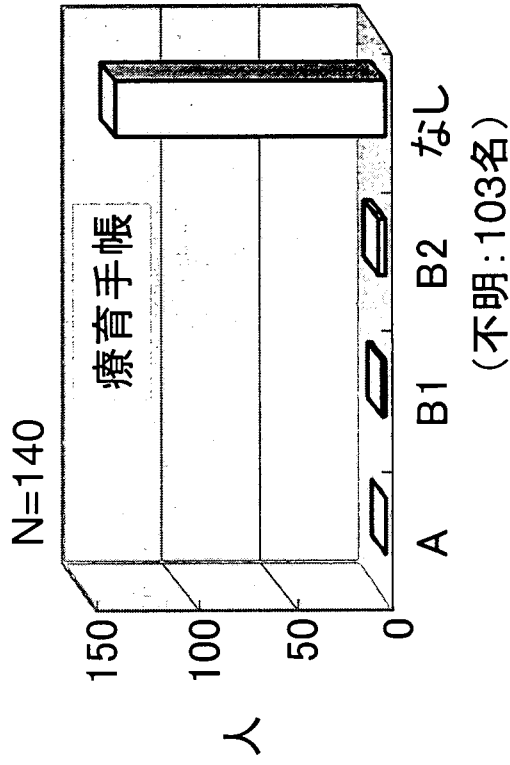
セルフケア



福祉サービス手帳の有無



(不明:78名)



高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究
(H18-こころ-一般-008)

分担研究者 永廣信治
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
教授

研究要旨

四国ブロックでは、昨年（平成 19 年）3 月の四国ブロック会議および研修会・交流会を契機として、各県における活動が活発に始まった。特に徳島と香川において中核支援施設と支援コーディネーターが指定され、当事者・家族会も発足し、ネットワークは徐々に構築されつつある。

A. 研究目的

本研究では四国 4 県の高次脳機能障害支援拠点機関、支援コーディネーターを配置することにより、各県ごとに専門的な相談支援、関係機関との連携ができるような体制を構築するために、ブロック会議、研修・交流会等を開催する。

B. 研究方法

徳島大学を中心として、四国ブロック会議、研修・交流会、勉強会等を開催し、四国 4 県での高次脳機能障害支援ネットワークを構築する。

（倫理面への配慮）

調査研究は、当事者、家族、関係者の自発的な協力を得てから実施した。調査対象者の個人情報等に係るプライバシーの保護ならびに如何なる不利益も受けないように十分に配慮した。

C. 研究結果

ブロック会議、研修・交流会、勉強会等を開催し、四国 4 県における高次脳機能障害者支援普及事業を推進した。香川県：かがわ総合リハビリテーションセンター、徳島県：徳島大学を支援拠点機関とし、それぞれ支援コーディネーターを配置し、家族会が発足した。

支援拠点機関開設後の相談件数は、香川県 40 名（延べ相談件数 203 件）、徳島県 10 名であった。また、徳島県では月 1 回（計 8 回）症例検討会を開催している。

D. 健康危険情報

無し

E. 研究発表

無し

事業内容

平成19年度（4月以降）の活動内容と現況、今後の計画を報告する。

1. 高次脳機能障害者支援のための研修・交流会 四国ブロック

日時：平成19年6月30日（土）13:30-17:00

会場：徳島大学 蔵本キャンパス内 長井記念ホール

出席者：医療関係者・当事者・家族・行政関係者・支援施設関係者など314名

内容

講演1：「高次脳機能障害の診断方法」 徳島大学神経内科 和泉 唯信

講演2：「高次脳機能障害支援の実際、福岡県の経験から」
産業医科大学リハビリテーション医学 蜂須賀研二

講演3：「家族・友の会の活動と支援」 日本脳外傷友の会 東川 悦子

パネルディスカッション

- ① 相談支援体制 ② 中核支援施設と支援コーディネーターの配置と役割
③ リハビリテーションの実際 ④ 就学・就労施設の実際 ⑤ 行政による対応・計画
⑥ 当事者・家族・友の会の要望
パネリスト：蜂須賀研二、東川悦子、石元康仁、和泉唯信、中村和己、泉薫

2. 高次脳機能障害支援四国ブロック会議

日時：平成19年10月27日（土）11:30-12:30

会場：徳島大学 蔵本キャンパス内 長井記念ホール会議室

出席者：医療関係者・当事者・家族・行政関係者・支援施設関係者など27名

議事：

1. 永廣より10月27日の講演会について説明
2. 永廣より6月30日開催した研修交流会内容を報告
3. 永廣より7月4日に開催された全国連絡協議会内容を報告
4. 四国各県担当者より、現状と活動内容・取り組みを報告
5. 中村より徳島県高次脳機能障害症例検討会の報告

3. 高次脳機能障害講演会「高次脳機能障害の理解と支援の輪を広げよう」

独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業

日時：平成19年10月27日（日）13:30-16:30

会場：徳島大学 蔵本キャンパス内 長井記念ホール

出席者：当事者・家族・医療関係者・行政関係者・支援施設関係者など115名

内容

講演1：「当事者と家族といっしょに進める高次脳機能障害のリハビリテーション」

脳外傷専門心理士 馬屋原誠司

講演2：「当事者活動から見えてきたこと」

おかやまモモの会 清水 正紀

シンポジウム：「当事者家族会と支援者の関わり」

4. 高次脳機能障害講演会

日時：平成20年1月27日（日）13:00-16:00

会場：徳島大学 蔵本キャンパス内 医学部臨床第二講義室

出席者：当事者・家族・医療関係者・行政関係者・支援施設関係者など83名

内容

講演1：「当事者・家族とともに考える高次脳機能障害」

徳島大学脳神経外科 永廣 信治

講演2：「脳外傷友の会高知 青い空の活動と問題点」

NPO法人脳外傷友の会高知「青い空」 片岡 治貞

徳島県家族会結成会議

徳島県家族会立ち上げ準備委員

5. 各県の現状（平成19年10月27日開催の会議とその後の報告から抜粋）

1) 愛媛県

①愛媛県担当職員（清家氏）からの報告

- ・保健師等を対象に研修会を開催した。
- ・国主催の研修会に保健師が参加した。
- ・県内医療機関に対し、高次脳機能障害者の実態調査を行い、65歳以上が多く3000名程度であることが判明した。
- ・予算獲得は困難な状況であるが、支援体制づくりを進めたい。
- ・平成20年1月現在、支援施設と支援コーディネーターは決定されていない。

②医療関係者（松山リハビリテーション病院 木戸氏）からの報告

- ・平成20年4月または5月に講演会、11月に「高次脳機能研究会」を開催予定。
- ・現在県にて予算等検討中。中核支援施設を松山リハビリテーション病院にすることについて関連部署・大学・事業所等に確認中であり、2月初旬頃には確定の見込みである。

③愛媛高次脳機能障害を支援する会「あい」（一色氏）からの報告

- ・東予・中予・南予 各地域持ち回りで月1回交流会を開催予定で、会員相互の理解交流を深めている。
- ・当事者同伴が多く、当事者の活動内容を検討し、外出・コミュニケーションを図ることの活動がなされている。
- ・支援者が定着しつつある。
- ・誘発対策を図るため、8月に県関係者との交流会を開催した。

④研修会の開催（7. 平成19年度の四国ブロックにおける研修・交流会一覧参照）

2) 香川県

1. 香川県高次脳機能障害支援普及事業（平成19年度から）

○支援拠点機関：かがわ総合リハビリテーションセンター

○高次脳機能障害支援普及事業は支援拠点機関に委託をして実施。

（1）相談・支援事業

①専門相談窓口の設置

「高次脳機能障害相談窓口」開設

場 所：かがわ総合リハビリテーションセンター福祉センター内

利用時間：午前9時から午後5時

電話番号：087-867-7686

②相談支援コーディネーター1名配置 支援コーディネーター氏名：森川麻理

③高次脳機能障害者やその家族、医療機関、福祉施設等関係機関からの相談対応及び社会復帰支援等を行う。また、県民及び保健、医療、福祉、行政等の関係者からの相談・照会等に対応する。

（2）教育・啓発事業

①高次脳機能障害者を支援する専門的な職員を養成するための研修会開催 第1回研修会

日 時：平成19年10月27日（土） 13:30～17:00

場 所：かがわ総合リハビリテーションセンター福祉センター
2階 研修室

内 容：講演会「高次脳機能障害者支援について
～岡山県の事例を通して～」

川崎医療福祉大学 教授 種村 純

説 明「香川県高次脳機能障害支援普及事業について」

かがわ総合リハビリテーション事業団 相談員 森川麻理

第2回研修会（予定）

日 時：平成20年2月15日（金） 18:00～20:30

場 所：かがわ総合リハビリテーションセンター福祉センター
2階 研修室

内 容：講演会「高次脳機能障害者への対応、

これまでの私たちの取り組みから」

名古屋市立大学大学院医学研究科脳神経外科学 教授 山田和雄

②県民や関係機関等に、広く高次脳機能障害の理解を促進するためのパンフレットを作成予定

③高次脳機能障害支援連絡協議会等の開催

地域における高次脳機能障害ネットワークの構築のため、支援拠点機関、医療機関、県、市町、福祉施設等の関係機関による連絡協議会を設置・運営をする。

日 時：平成20年1月30日（水） 18：30～20：00

場 所：かがわ総合リハビリテーションセンター福祉センター
2階 AV会議室

内 容：高次脳機能障害支援連絡協議会について
香川県高次脳機能障害支援普及事業について

2. かがわ総合リハビリテーションセンターが単独で実施する事業

(1)平成19年度障害者保健福祉推進事業（障害者自立支援調査研究プロジェクト）

①「県内における高次脳機能障害者の実施調査と社会資源調整及び、新たな資源開発と関係機関との支援ネットワーク作りのための研究」

・県内の各医療機関、福祉施設にアンケート用紙を送付し、高次脳機能障害のある患者・利用者に配布していただき、それを回収後集計・分析・考察を行う。

・それと同時に、各機関における高次脳機能障害者に対するサービスの実態を調査し、社会資源の現状を把握し、今後の支援体制の確立に役立てる。

②「高次脳機能障害者のPET診断による研究」

・香川大学医学部付属病院脳神経外科に協力を依頼し、PETを用いた診断による研究を実施し、今後の診断・評価・リハビリの一助とする。

(2)講演会等

①NPO法人日本脳外傷友の会助成事業(家族会と合同企画で実施)

日 時：平成19年12月22日（土）13：30～16：30

場 所：かがわ総合リハビリテーションセンター福祉センター
2階 研修室

内 容：独立行政法人 福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業
高次脳機能障害の理解と支援の拡大をめざして
—今ある命に感謝して一歩ずつ進んで行こう—
講演1「高次脳機能障害リハビリテーションの事例」

産業医科大学リハビリテーション医学講座教授 蜂須賀研二

講演2「家族会の果たす役割」

NPO法人日本脳外傷友の会 副理事長 清水正紀

②日本損保協会助成事業(有志による実行委員会形式で実施)

日 時：平成20年1月26日（土）13：00～16：30

場 所：かがわ総合リハビリテーションセンター福祉センター
2階 研修室

内 容：第3回香川脳外傷リハビリテーション講習会
「新たな一歩を踏み出そう」

講演「高次脳機能障害とコミュニケーション」

県立広島大学保健福祉学部コミュニケーション障害学科 講師 本多留美

報告「香川の家族会の現状報告」

かがわ脳外傷友の会 ぼちぼち 会長 岩部トヲエ

(3)家族会支援

家族会正式発足 平成19年12月22日（土）設立総会開催

かがわ総合リハビリテーションセンターに事務局を置き、企画・運営を支援する。

3) 高知県

①高知県障害福祉課（岡宗氏）からの報告

- ・10月6日、近森病院宮本氏主催で講演会が開催された。
- ・医療・福祉機関と市町村を対象に高次脳機能障害支援状況の実態調査（アンケート、回収率：61.1%）を行った結果、高次脳機能障害者は65歳未満が年間220名余り（県民人口あたり、0.07%）であること、相談窓口の明確化、市町村への情報提供、支援体制の整備、連携が課題であることが確認された。
- ・平成19年3月に障害福祉計画が施行され、20年度に支援拠点を決定予定である。

②医療関係者（近森リハビリテーション病院 宮本氏）からの報告

- ・県が実態調査を開始し、本格的に取り組みはじめた。
- ・拠点、コーディネーター決定後実務者講習会を開催し、機関相互の連絡協議会づくりを進めていく予定である。

③脳外傷友の会高知「青い空」 片岡氏

- ・相談できる公的機関ができるだけ早く運営を開始し、制度・ネットワークがスタートすることを希望している。

④講習会の開催（7. 平成19年度の四国ブロックにおける研修・交流会一覧参照）

4) 徳島県

①徳島県担当者会議（研修会・交流会に先立ち開催）

日時：平成19年6月12日（火）16:00-18:00

会場：徳島大学 脳神経外科教授室

出席者：四国ブロック統括者（永廣信治）、徳島県担当者など 7名

議事

1. 永廣より6月30日開催の研修・交流会について説明
2. 研修・交流会での発表・意見交換内容について打ち合わせ
3. 永廣より、徳島県中核支援施設・支援コーディネーターの認定案を提示し、県に承認を得るよう依頼。
4. 永廣より、関連施設の拡大を提案
5. 県担当者より県内各所にて市町村窓口・地域関係施設に対する広報目的のセミナーを開催することを提案
6. サービス内容と連携方法の確認
7. 定期的に徳島県ブロックネットワーク会議を開催することを確認
8. 県担当者より広報パンフレット作成を提案
9. 永廣より毎月第一木曜日に徳島大学にて高次脳機能障害症例検討会を開催することを提案

②徳島県高次脳機能障害連絡協議会

日時：平成19年6月30日（土）12:00-13:00

会場：徳島大学 蔵本キャンパス内 長井記念ホール会議室

出席者：医療関係者・当事者・家族・行政関係者・支援施設関係者など18名

議事：

1. 永廣より6月30日開催の研修・交流会について説明
2. 永廣より徳島県中核支援施設・支援コーディネーター設置について報告
3. 和泉より徳島大学病院における相談窓口と方法を説明
4. 各担当者より協力支援施設について今後の課題・活動内容を討議
5. 和泉より月に1回症例検討会を開催することを報告、協力を依頼
6. 東川より徳島県家族会・友の会立ち上げを目指すことを提案

③徳島県（健康増進課 林氏）からの報告

- ・徳島大学（永廣先生）の協力の基に、平成19年7月から、徳島大学が中核支援施設として、また言語聴覚士（中村氏）が支援コーディネーターとして決定。
高次脳機能障害者の相談支援窓口が整い活動が開始となった。
- ・県精神保健福祉センター主催で、徳島大学永廣教授・中村言語聴覚士を講師に迎え、県下医療機関、行政機関等関係者を対象に研修会を開催。また、各保健所主催で、一般住民、市町村、作業所、医療機関等 関係者を対象に研修会を開催し、高次脳機能障害についての理解と普及啓発を図った。

- ・高次脳機能障害の理解を促進するために、平成19年度に「県版」冊子を作成し、広く県民や関係機関等に啓発予定。
- ・予算獲得が厳しい中、徳島大学の支援、協力の基に、関係機関等相互の連携に努め、地域の支援体制づくりを進めていきたい。
- ・他県が実施した実態調査等を参考として、実態調査等も今後検討していきたい。
- ・研修会の開催（7.平成19年度の四国ブロックにおける研修・交流会一覧参照）

④高次脳機能障害徳島家族会の結成

平成20年1月27日の研修会において、家族会の結成大会が行われた。
代表は岩垣氏で22名（うち賛助会員1名）にて発足した。

⑤徳島高次脳機能障害症例検討会（毎月1回、徳島大学病院にて）

月に1回、徳島大学病院にて、県下の関係者30名前後が集まり、各事例について検討会を行い、意見の交換を行っている。本年1月で既に6回が開催され、高次脳機能障害支援に携わっている関係者の意識向上と連携強化に寄与している。

6. 今後の計画

- ①中核支援施設とコーディネーターが決まっていない愛媛県、高知県において、平成20年度内に指定がなされるように、働きかけと環境整備をサポートする。
- ②各県が主体となって市町村に研修事業を展開し関係者に定期的な講習・講演の機会を提供するように、働きかけを行う。
- ③各県の中核支援施設において、県下の関係者が集い相談事例の検討会を定期的に（月に1回ほど）開催する。
- ④四国全体での検討会、講演会および全体会議を数回開催し、情報の共有とネットワークの強化を諮る。
- ⑤四国全体の高次脳機能障害当事者の実態調査を、医療機関、行政、当事者・家族団体が協力して行う。
- ⑥高次脳機能障害者の重症度に応じた適切な訓練・支援の改善策について検討する。

7. 平成19年度の四国ブロックにおける研修・交流会一覧

開催地	名称	開催日	参加者数
香川	つながろう ささえよう ー高次脳機能障害をより深く理解するため	平成18年12月16日	68
徳島	高次脳機能障害を考える研修・交流会 ー四国における支援ネットワークの構築に向けてー	平成19年3月17日	252
徳島	高次脳機能障害者支援のための研修・交流会	平成19年6月30日	314
徳島	平成19年度高次脳機能障害者支援事業関係職員研修会	平成19年9月12日	92
徳島	阿南保健所 高次脳機能障害研修会 ー高次脳機能についてー	平成19年9月20日	44
高知	高知脳外傷リハビリテーション講習会 ー高次脳機能障害とつきあうー	平成19年10月6日	230
徳島	美馬保健所 高次脳機能障害研修会 「高次脳機能障害の基礎知識」	平成19年10月25日	26
徳島	高次脳機能障害講演会 ー高次脳機能障害の理解と支援の輪を広げようー	平成19年10月27日	115
香川	平成19年度第1回高次脳障害支援関係職員研修会	平成19年10月27日	93
徳島	吉野川保健所 高次脳機能障害勉強会 ー高次脳機能障害とはー	平成19年12月13日	47
徳島	美波保健所 高次脳機能障害研修会 ー高次脳機能障害を知っていますか?ー	平成19年12月20日	33
香川	NPO法人日本脳外傷友の会助成事業 高次脳機能障害の理解と支援の拡大をめざして ー今ある命に感謝して一歩ずつ進んでいこうー	平成19年12月22日	102
徳島	徳島保健所 高次脳機能障害研修会 ー高次脳機能障害の理解と支援の充実のためにー	平成20年1月23日	39
香川	日本損保協会助成事業 新たな一歩を踏み出そう 第3回香川脳外傷リハビリテーション講習会	平成20年1月26日	84
徳島	高次脳機能障害講演会 当事者・家族と一緒に学び広げよう高次脳機能障害支援の輪	平成20年1月27日	83
徳島	三好保健所 高次脳機能障害講演会 ー知ってください！高次脳機能障害ー	平成20年2月13日	32
香川	平成19年度第2回高次脳機能障害支援関係職員研修会 「高次脳機能障害者への対応、これまでの私たちの取り組みから」	平成20年2月15日	95

高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究
(H18-こころ-一般-008)

分担研究者 丸石正治
広島県障害者リハビリテーションセンター
高次脳機能センター長

研究要旨

中国ブロックのとりまとめとして、広島、岡山、鳥取、島根、山口の5県でブロック会議を設け、高次脳機能障害の支援普及について検討した。既にモデル事業で拠点施設を設置している広島県、岡山県に加えて、山口県、島根県に拠点施設が設置され、さらに平成20年度には鳥取県でも拠点施設が設置されるべく検討が進んだ。県内の支援ネットワーク形成が進んでいるのは、広島、岡山、島根の3県で、いずれも県内で均一なサービスが提供されるように、数ヶ所の地域支援拠点を指定した。

A. 研究目的

中国地区における高次脳機能障害支援普及事業を推進するため、モデル事業に参加した拠点機関が中心となって、高次脳機能障害への対応を普及させる。

B. 研究方法

ブロック会議を開催し、中国5県における情報交換と相互支援を協議する。また、モデル事業参加した広島県、岡山県が他県の患者に対して具体的援助を実施するとともに、他県において講演会を実施することにより、中国5県での高次脳機能障害支援ネットワークを構築する。

個人データを調査する際には下記の倫理面での配慮をなす。

(倫理面への配慮)

調査研究は所属する施設の倫理委員会の承認を経て実施する。調査対象者及び保護者・関係者から、口頭ならびに文書にてインフォームドコンセントを徹底し、調査対象者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施した。調査対象者の個人情報等に係るプライバシーの保護ならびに如何なる不利益も受けないように十分に配慮した。

C. 研究結果

中国ブロック会議を年2回開催するとともに、

中国ブロック研修会を実施した。各県支援拠点機関における支援実績は以下の通り（但し、鳥取県は支援拠点機関未指定、岡山県は別掲）

【広島県】年間相談実人数 343人

【島根県】年間相談実人数 105人

【山口県】年間相談実人数 33人

D. 健康危険情報

特に無し

E. 研究発表

次項

事業内容

1. ブロック全体での活動状況

協議会開催	
日時, 場所	参加人数
平成19年度第1回中国ブロック高次脳機能障害連絡協議会 19年9月6日 広島市	22名
平成19年度第2回中国ブロック高次脳機能障害連絡協議会 20年3月8日 倉敷市	20人
研修会開催	
日時, 場所	内容, 講師
平成19年度中国ブロック高次脳機能障害研修会 20年3月8~9日 倉敷市	<p>総論 広島県高次脳機能センター長 丸石 正治 川崎医科大学附属病院 リハビリテーション科部長 椿原 彰夫</p> <p>医療 川崎医療福祉大学 感覚矯正学科 教授 種村 純 他</p> <p>福祉サービス おかやま福祉の郷のぞみ寮 高次脳機能障害支援室長 後藤 祐之 他</p> <p>就労支援 岡山障害者職業センター 岡野 真理 吉備高原職業リハビリテーションセンター 神崎 剛志</p> <p>当事者団体の活動 おかやま脳外傷友の会・モモ会長 清水 正紀 氏</p> <p>行政の役割 岡山県保健福祉部健康対策課</p>

2. 各県における活動状況 (岡山県別掲)

	島 根 県
平成19年度高次脳機能障害支援普及事業	高次脳機能障害者支援事業
支援拠点機関名 (電話番号)	県立心と体の相談センター (0852-21-2885)
支援コーディネーター (職種)	土江啓悦 行政職 (心理)
研修会開催実績	別記

その他の主な事業内容	<p>圏域相談支援拠点（委託実施）</p> <p>松江圏域：松江市障害者生活支援センター 出雲圏域：エスポアール出雲クリニック 浜田圏域：西部島根医療福祉センター 益田圏域：益田市障害者福祉センターあゆみの里</p> <p>委託内容</p> <p>相談支援（窓口機能） 家族支援 地域ネットワーク会議の開催（地域資源の開発）</p>
事業実施上（実施検討上）の課題など	障害についての理解、支援事業の周知が不十分。啓発活動が必要 通所の適切なサービス資源がない場合があること。

鳥 取 県	
平成19年度高次脳機能障害支援普及事業	平成19年度高次脳機能障害普及啓発事業 平成19年度高次脳機能障害者相談支援事業
支援拠点機関名	なし
支援コーディネーター	不在
支援拠点等が現在ない場合の相談先（名称・電話番号）	<p>各総合事務所福祉保健局（3圏域4箇所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東部（0857-22-5616） ・ 中部（0858-23-3147） ・ 西部（0859-31-9309） ・ 日野（0859-72-2037） <p>精神保健福祉センター（0857-21-3031） 高次脳機能障害者家族会（相談電話：080-1921-1711）</p>
研修会開催実績	別記
その他の主な事業内容	<p><高次脳機能障害者家族会による相談支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成15年度から相談支援・ピアカウンセリングを実施。（単県事業） ・ 現在は各関係機関へのつなぎ役としても動いていただいている。 ・ 併せて、当事者、家族や県民を対象とした普及啓発活動を実施。
事業実施上（実施検討上）の課題など	<p><支援拠点機関の設置について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥取大学医学部附属病院への支援拠点機関の設置について、当該病院と調整、内諾を得た。（平成20年度予算要求済。） ・ 平成20年度の支援拠点機関の業務として、下記のとおり実施予定。 <ul style="list-style-type: none"> ①福祉保健局の協力により、各圏域の医療機関、福祉サービス事業所の訪問調査等による実態把握。 ②地域における関係団体の活動や日中活動の場等の資源調査。 ③ ①、②の調査結果の情報提供 <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入口となる診断・検査を的確に行える医療機関の不足。 ・ 医療機関・医師への高次脳機能障害診断・検査に対する理解と診療報酬

	<p>につながらないコストの問題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者・支援者や関係機関に対して高次脳機能障害の詳細な検査結果を提供するためのツール、仕組み作り。 ・医療と福祉が連携し、段階的に支援を行える体制作りのため、障害福祉の現場に医療職（作業療法士、言語聴覚士等）が関わっていける仕組み作りと相互理解の必要性。（医療職・福祉職の連携・相互理解） ・地域で当事者が集まり、エンパワメントできる居場所とその仕掛け作り。
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

広島県	
平成19年度高次脳機能障害支援普及事業	高次脳機能障害対策普及事業 高次脳機能障害支援体制整備事業
支援拠点機関名 (電話番号)	広島県立障害者リハビリテーションセンター 高次脳機能センター (082-425-1455 (代))
支援コーディネーター (職種)	隅原聖子 社会福祉士 (兼) 精神保健福祉士 百川 晃 社会福祉士
研修会開催実績	別記
その他の主な事業内容	社会福祉法人広島県福祉事業団広島県立障害者リハビリテーションセンターに事業委託 ①専門医療の提供 ②専門リハビリテーション ③相談・支援事業 ④専門相談窓口の設置 ⑤家族支援及び当事者団体等との協同活動⑥教育・研究・啓発活動 ⑦連絡協議会の開催 ⑧専任職員の配置
事業実施上(実施検討上)の課題など	平成19年5月に地域の相談窓口のため指定した地域支援センターのネットワークの充実 高次脳機能障害者の社会復帰に向けた支援体制の構築 (就労支援等)

山口県	
平成19年度高次脳機能障害者支援事業	高次脳機能障害支援普及事業
支援拠点機関名 (電話番号)	山口県身体障害者福祉センター (083-925-2345)
支援コーディネーター (職種)	近藤光恵 社会福祉士
研修会開催実績	別記
その他の主な事業内容	医療機関、福祉施設等随時周知 (施設訪問や研修会等での事業紹介)

	<p>相談支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電話・来所・訪問による相談及び評価 ・ 関係機関等への連絡調整及び個別支援 <p>家族会支援</p>
事業実施上(実施検討上)の課題など	<p>支援拠点機関に医師がおらず、精神保健福祉手帳の取得等支援はできるが、医学的リハ（高次脳に特化した）の指示がだせる医師がいない。</p> <p>地域支援のネットワーク化をすすめるにも、リーダーシップをとる医師がいない。</p> <p>医療機関、とくに急性期の医療施設にむけて、事業の周知が必要受け皿である自立支援サービス実施機関の機能・サービス等の不足専任のコーディネーターの確保がむずかしく、支援拠点機関の職員が兼務と臨時職員（看護師）で対応しており、十分な体制ではない</p>

3. 講演会、研修会の開催状況（岡山県別掲）

【島根県】

期日・場所	内容・講師	参加者
高次脳機能障害支援フォーラム 19年6月3日 出雲市	「高次脳機能障害の地域支援体制づくりについて」 広島県高次脳機能センター センター長 丸石正治 氏 「活動報告」 脳外傷友の会らぶ副会長 御神本啓師 氏 エスポアール出雲クリニック院長 高橋幸男 氏 松江市障害者生活支援センター相談員 出雲あかり 氏	200名
高次脳機能障害研修会 19年7月11日 益田市	「高次脳機能障害について」 島根県立心と体の相談センター コーディネーター 土江啓悦氏	10名
高次脳機能障害研修会 19年8月1日 出雲市	「高次脳機能障害について」 島根県立心と体の相談センター コーディネーター 土江啓悦氏	41名
高次脳機能障害研修会 19年8月16日 松江市	「高次脳機能障害について」 島根県立心と体の相談センター コーディネーター 土江啓悦氏	25名
高次脳機能障害研修会 19年11月1日 大田市	「高次脳機能障害について」 島根県立心と体の相談センター コーディネーター 土江啓悦氏 「高次脳機能障害と家族の思いについて」 脳外傷友の会らぶ副会長 御神本啓師 氏	40名
高次脳機能障害研修会 19年11月27日 浜田市	「高次脳機能障害の地域支援体制づくりについて」 広島県高次脳機能センター センター長 丸石正治 氏 「高次脳機能障害への島根県の取り組みについて」 島根県立心と体の相談センター コーディネーター 土江啓悦氏	110名
高次脳機能障害研修会 20年1月10日 大田市	「高次脳機能障害について」 島根県立心と体の相談センター コーディネーター 土江啓悦氏 「高次脳機能障害のデイケアについて」 エスポアール出雲クリニック院長 高橋幸男 氏 「高次脳機能障害の相談支援について」 エスポアール出雲クリニック社会福祉士 新藤優子 氏	70名
高次脳機能障害	「高次脳機能障害について」	20名

研修会 20年2月20日 浜田市	島根県立心と体の相談センター コーディネーター 土江啓悦氏	
高次脳機能障害 研修会 20年3月14日 益田市	「高次脳機能障害について」 島根県立心と体の相談センター コーディネーター 土江啓悦氏 「高次脳機能障害と家族の思いについて」 脳外傷友の会らぶ副会長 御神本啓師 氏	30名

【鳥取県】

期日・場所	内容・講師	参加者
鳥取県医師会 産業医研修会 ○鳥取市 19年7月8日 ○倉吉市 19年9月30日 ○米子市 19年11月18日	「高次脳機能障害の啓発と復職支援等について」 鳥取県精神保健福祉センター 所長 原田豊	200名
高次脳機能障害 がわかる研修 (医療社会事業 協会) 19年10月28日 倉吉市	「相談支援に必要な高次脳機能障害の基礎知識」 国立身体障害者リハビリテーションセンター学院 学院長 中島八十一 シンポジウム「鳥取県の高次脳機能障害の支援体制の現状と課題 について考える」 ○シンポジスト 大山リハビリテーション病院 医師 佐藤武夫 錦海リハビリテーション病院 医療ソーシャルワーカー 堀谷多恵子 鳥取県障害者職業センター 障害者職業カウンセラー 北口由希 ぱれっと三田 管理責任者 伊藤かなで ○コメンテーター 国立身体障害者リハビリテーションセンター学院 学院長 中島八十一 ○コーディネーター 鳥取県東部総合事務所福祉保健局障害者支援課 身体障害者福祉司 元木順子	80名
平成19年度高次 脳機能障害普及 啓発事業作業療 法士会研修 19年12月8日 米子市	「ずっと住み慣れた地域で暮らしたい—高次脳機能障害者の支援 を通して—」 高次脳機能障害者家族会 会長 森田多賀枝 「高次脳機能障害—どのように対応するか—」 東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座 准教授 橋本圭司	100名
高次脳機能障害 普及啓発事業言 語聴覚士専門研 修	「注意・意欲検査法について」 鳥取医療センター 言語聴覚士 森智美 「記憶障害・半側空間無視について」 なんぶ幸朋苑 言語聴覚士 門脇康浩	80名